

退院支援ナース養成研修 開催

超高齢者社会の到来に向けて、厚生労働省は「地域完結型医療」への推進を図っています。その一端を担う退院支援の充実、患者の早期退院ばかりでなく、地域でのよりよい生活の構築を可能にすると考えます。診療報酬上の退院支援加算に関する評価も高くなってきており、退院支援看護師の養成が急務となって参りました。今回、上尾中央総合病院のご協力を頂き、「退院支援ナース養成研修」を2日間の日程で開催致しました。退院支援に必要な知識・技術を習得するための講義と、実際の在宅医療の現場を知るための訪問看護ステーション研修が組み込まれたプログラムは、とても好評をいただきました。次年度も開催する予定ですので奮ってご参加下さい。



「本研修を受講し、入院時から退院後の生活を視野に入れ、疾患のみならず予防的看護計画を立案し、退院支援を行うことが今後の病棟看護師として重要な役割ではないかと再認識しました。今回の学びをスタッフへの指導に役立てたいと思います。」

吉川中央総合病院 主任 石川 里美



保育の現場の安全を考える

柏厚生総合病院 さくらんぼ保育室 主任 斎藤 恵実



今回「保育の安全対策と応急手当」をテーマに、保育応急救護協会の遠藤登先生をお招きし、1月21日(土)AMG学習館にて保育研修会が開催されました。

もし保育の現場で命に係わる大きな事故が起きてしまったら、「心肺蘇生を！」と思わずにパニック状態になるでしょう。より冷静に適切な対応を取るためには、安全対策(事故防止)と危機管理(事故発生時対応)が重要で、この2つから子どもを守ることを考えなければいけないと、学ぶことができました。

まずは、ヒヤリハットの活用についてです。なかなか上がらないヒヤリハット報告数ですが、保育士が感じるヒヤリ、ハットしたことを見つけていくことが大切であり、たくさん集めることによって重大な事故をさせない、減らす、無くすことに繋がっていくのだと改めて実感しました。

今回、ヒヤリハットを早々に全職員が共有する方法として、ハザードマップの作り方を学びました。園や園周辺の地図を作り、ヒヤリ、ハットした場所にポストイットを貼り、全職員の共通理解を図るというものです。目に見えることで、問題解決に向けた次の行動に移しやすくなるということにとっても興味を持ってました。

そして、実際に子どもが怪我をしてしまった場合まず手当をしますが、その後の行動が大切であると学びました。どうやって怪我をしたのか、どんな手当をして、今はどのような状態になったのかまでを伝えるのが保育士の仕事であるということでした。

感染対策として、常にポケットにはグローブを持参し直ぐに対処できるよう心構えも必要であるという話も、とても興味深く聞くことができました。

今回の研修で学んだことを早速自分の園で見直し、取り入れ、これからも子どもたちの安全を常に考え、保護者の方に安心して預けていただける様に励んでいきたいと思いました。



看護部長 年間目標成果発表会 開催

当グループの病院・老健の各(介護)看護部長による年度目標の成果発表会を去る2月2日と3日の2日間に分けて実施しました。この取り組みは初代AMG本部看護部長(現看護局長)の古橋美智子先生が初めて実施してから16年目になりました。看護部長が病院や施設全体から看護部で取り組むことを計画としてまとめ、職員へ周知、実施し1年間の評価から次年度取り組む課題を抽出していきます。的確な活動実践のためには重要な活動と位置付けています。ここ数年間は各部長が看護局へのプレゼンテーションの形で実施していましたが、今回の全体発表会は新鮮で他の部長の取り組みも聞くことができましたし、質問もできたので、有意義だったと言う声をたくさんいただきました。

看護部門の責任で実行すべき項目は入院基本料を遵守するだけにとどまらず、加算項目などへの関与も年々増加しています。看護部の目標管理が、的確な成果への道しるべとなるように期待して、報告いたします。

上尾中央医科グループ協議会 看護局長 柳谷 良子



看護局の「教育計画」完成しました!

平成29年度に向けて、「教育計画」が完成しました。次年度は以前に加えて、新たに次世代を担う看護管理者を育成するための研修、名づけて「AMGキャリア開発プログラム:科長以上」の開催を予定しています。その他にも、老健で勤務する看護職向けの研修や、介護職を対象にした研修も計画しています。更にキャリアサポートセンターで開催される研修案内も掲載していますので、平成29年度に向けた個人目標を設定する際に、是非ご活用下さい。教育計画は、各病棟・部署分お送りします。研修に参加ご希望の方は看護局のホームページからお申し込み下さい。皆様の参加をお待ちしております。

